

# 二二 瀨川流域の暮らし

ひとつせがわりゆうつぎのへらこし



# ① 流域の名前の由来 りゅういきのなまえのゆらい

## (1) 河川の名前の由来

### ひとつせがわ ゆらい 一ツ瀬川の由来

かつて、一ツ瀬川は地域によって様々な名前では呼ばれていました。しかし、古い書物において「一之瀬川」と書かれたものが発見されています。一之瀬とは、西米良村と西都市の境で一ツ瀬川と銀鏡川が合流する地点にある一之瀬という地名から名づけられました。これが現在の一ツ瀬川という呼び名のルーツになっているといわれています。

ほかにどんな呼び方をしていたんだろう・・・



ほかに・・・

「穂北川」(伊倉村)、佐土原川(新田村、下富田村)、  
「福島川」(下田島村) などと呼ばれていました。



### だいこんがわ みのおがわがめばしふきん ゆらい 大根川(三納川雁亀橋付近)の由来

一ツ瀬川に流れ込む三納川は、雁亀橋の付近だけその地区の人に「大根川」と呼ばれています。毎年大根の収穫時期になると、この地区だけ水が流れなくなるため、大根が洗えなくなってしまいます。そのためにこの地区の人は、あえて「大根川」と呼んだのです。

なんで水が流れないんだらう？



大根川には古い言い伝えがあるみたいよ

大根川伝説は全国各地にあるんだって



## (2) 流域の地名の由来

ひとつせがわ りゅういき ちめい さまざま ゆらい い づた のこ みな  
 一ツ瀬川の流域の地名にも、様々な由来や言い伝えが残されています。皆さんはどれくらい知っていたかな？

### おうじ 王子

ひとつせがわ かこう きたがわ おうじちく おうじ なまえ  
 一ツ瀬川の河口の北側に、王子地区があります。「王子」という名前は、  
 じんむてんのう さいしよ てんのう ようしょうじだい あそ ばしよ な  
 神武天皇（最初の天皇）が幼少時代に遊んだ場所だということで、名づけられたと伝えられています。

さいとし つま じんじゃ じんじゃ  
 西都市に都萬神社という神社があります。この「つま」という呼び方が、現在の  
 つま ちく ちめい ゆらい い  
 「妻」地区の地名の由来であると言われて  
 つま じんじゃ いま ねんまえ  
 います。都萬神社は今から1000年前の  
 へいあんじだい しょもつ どうじょう ころ  
 平安時代の書物に登場しており、その頃からあるとても歴史のある神社です。



写真：都萬神社

-写真：さいと-古代ロマンとあふれる自然-

### つま 妻

### さどわら 佐土原

さどわら ちめい ゆらい せつ  
 「佐土原」の地名の由来は2つの説があります。1  
 め むかし ちほう よ たけ  
 つ目は、昔からこの地方にはサドガラと呼ばれる竹  
 に しょくぶつ しげ  
 に似た植物がよく茂っていたので、サド原と呼ばれた  
 という説です。2つ目は、「里原」という地名に由来  
 します。「里原」とは昔から多くの人々が集まり住む  
 さどはら むかし おお ひとびと あつ す  
 地区のことを指しており、佐土原が昔から栄えていたことを示しています。



写真：サドガラ（イタドリ）

しろみ しんわ ゆらい  
 銀鏡には、神話にもとづく由来があります。イワナガヒメという姫が自分の顔を鏡  
 ひめ じぶん かあ かがみ  
 に映したところ、龍の顔が映りました。びっくりした姫は鏡を放り投げたところ、  
 うつ りゅう かあ うつ  
 ひめ かがみ ほう な  
 東米良まで飛んできて木の枝に引っかかりました。この鏡が白く光っていたことから、  
 かがみ しろ ひか  
 ひがしめら と き えだ ひ  
 銀の鏡と書いて「しろみ」と呼ぶようになったと伝えられています。



写真：銀鏡神社

-出典：「ひむか神話街道50の物語集」

### しろみ 銀鏡

## しいば 椎葉

「椎葉」は、壇ノ浦で破れた平家の一族が隠れ住んだ所として有名な土地です。この地域の平家の残党が厳島神社（広島県）を祭ったときに、その神社の屋根をシイの葉で造ったことから、椎葉と呼ばれるようになったと伝えられています。

新富町の新田に「船津」という場所があります。太古の昔、ヒコホホデミノミコトが一ツ瀬川を下る船を着けたのがこの岸であったため、船津という地名になったという神話があります。ちなみに「津」は船着場を意味する言葉です。

## ふなつ 船津

## さんざい 三財

「三財」の名は、室町時代にその原型である「散財」の地名が記述されています。この頃は、散財の他に「上散財」と「下散財」の2つの地区があったことが推測され、この3つの散財を合わせて、今の「三財」になったと考えられています。

西米良村の「田無瀬」地区付近は、川に多くの魚が集まり、漁に適した場所でした。ここでは「タブ」という魚をすくう道具を使って魚をすくいあげていました。このため、この地が「タブの瀬」といって語り継がれ、現在の「田無瀬」という名前になっています。



写真：昭和9年頃の由無瀬

## たむぜ 田無瀬

## ふなくら 船倉

一ツ瀬川に架かる新瀬口橋のたもとにある「船倉」という地区は、昔、西都方面の産物を福島港まで荷物を運ぶ小船が出入りする場所であり、船の倉庫が多くあったことから「船倉」と呼ばれるようになりました。一ツ瀬川は川底が浅かったため、大型船が通ることができませんでした。よって、当時は小船が大活躍していました。



ちめい  
地名にはいろいろな  
りゆう  
理由があるんだね



ほか  
他にもいっぱいありそう  
だね、調べてみよう！

② 流域の伝説・言い伝え りゅういきのでんせつ・いいつたえ

ひとつせがわ りゅういき さまざま でんせつ い つた のこ さいとし ほうげん なが かわ じもと ひと さくらがわ よ  
一ツ瀬川の流域には、様々な伝説や言い伝えが残されています。皆さんが聞いたことのあるお話しはあるでしょうか？

物語り

桜川の桜子

(西都市 法元)

さいとし ほうげん なが かわ じもと ひと さくらがわ よ  
西都市の法元に流れている川を、地元の人々は桜川と呼んでいます。

むかし さくらこ な むすめ はは ふたり ほそほそ く  
その昔、桜子という名の娘が母と二人で細々と暮らしていました。  
さくらこ ちち さくらこ う たかい はは はたら で  
桜子の父は、桜子が生まれるとすぐに他界してしまったので、母が働きに出  
て日々の暮らしを立てていました。

しかしある日、母が過労で寝込んでしまいました。

ちょうどその頃、人買いがよく行われていました。

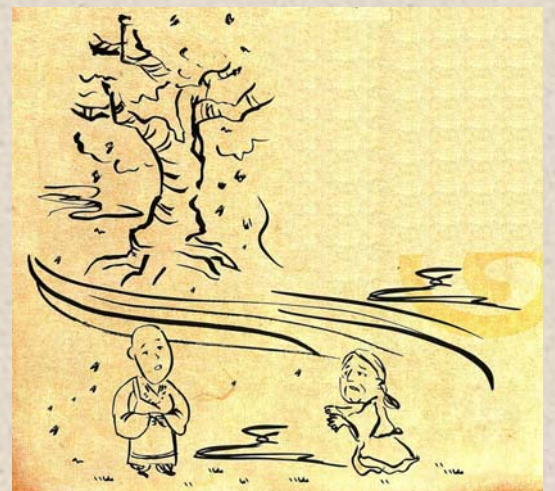
さくらこ さくらこ み う だいきん くすり か はは てがみ のこ  
桜子は、「わたしの身を売った代金で薬を買うように」と、母に手紙を残し  
て行き先も告げずに出て行きました。

それを知った母は、必死になって娘の後を追いかけてきましたが、行方はわかり  
ませんでした。

さくらこ ひたちくに げんざい いばらきけん き ひとか わるもの  
桜子は常陸の国(現在の茨城県)まで来ましたが、人買いがあまりに悪者だ  
ったために逃げ出し、磯辺寺という寺の住職に助けられ、三年の月日がた  
ちました。

ある日、住職が寺の下を流れる桜川で、  
ひとり おんな さくらがわ こ さくらこ  
一人の女が「ここは桜川 わが子は桜子 な  
つかしや こいしや」と歌っているのを見かけ  
ました。たずねてみると、「自分は筑紫日向のも  
じぶん ちくしひゅうが  
ので、たった一人のわが子を取られ、後を  
ひとり こ ひとしち あと  
追ってここまで来たが、見つけることができな  
い。」と女は言いました。

さてはと思い、住職はその女を桜子に会わ  
せたところ、母と子は抱き合い、再会を喜びま  
した。そして、母の病気も治り、親子連れ立っ  
て郷里の桜川に帰りました。



かみたじま つつみ すぎたろくのすけひでづく ぶし す  
 上田島の堤に杉田六之助秀次という武士が住んでいました。  
 ろくのすけ ちく きたがわ なが さんざいかわ なかま いっしょ はり まちあみ  
 六之助は、地区のすぐ北側を流れる三財川に、仲間と一緒に梁（待網）をし  
 かけました。しかし、ここ数日曲者が出没し漁を邪魔しているのです。今夜も  
 また、誰かが漁の邪魔をしていました。

「さてはまたきおったな、よし覚えておれよ。今日こそは。」

と、手もとのナタ鎌を握り暗い水面をぐっとにらみつけ、ナタ鎌をふりおろ  
 しました。

「ギイッ！」

という泣き声があがり、確かな手ごたえがありました。すると、水しぶきの中  
 から黒い怪物が浮き上がり、六之助はその怪物をつかんで川原にたたきつけま  
 した。動かなくなった怪物は、河童でした。

ところが数日後、堤には多くの病人がでてきました。  
 ろくのすけ ねつ つづ ゆめ なか かっぱ あらわ  
 六之助も熱にうなされ続けました。その夢の中に河童が現れ、

「漁の邪魔をしたことは悪かった。許してくれ。でも、私をいつまでも  
 かわら さら しゃ うら  
 河原に晒し者にすることは恨みます。」

と、言いました。  
 ぎょうそう すご ろくのすけ  
 その形相が凄かったため、六之助は、

「そりゃ、わしが悪かった。許してくれ。」

と話を続けようとしたところ、夢から覚めてしまいました。

そこで、六之助はひからびた河童を丁重に吊い、河原を清め、石を積ん  
 ぼうむ ごと びょうき や い  
 で葬ると、その後はぴたりと病気は止んだと言われています。

物語り

# イワナガ姫の神話

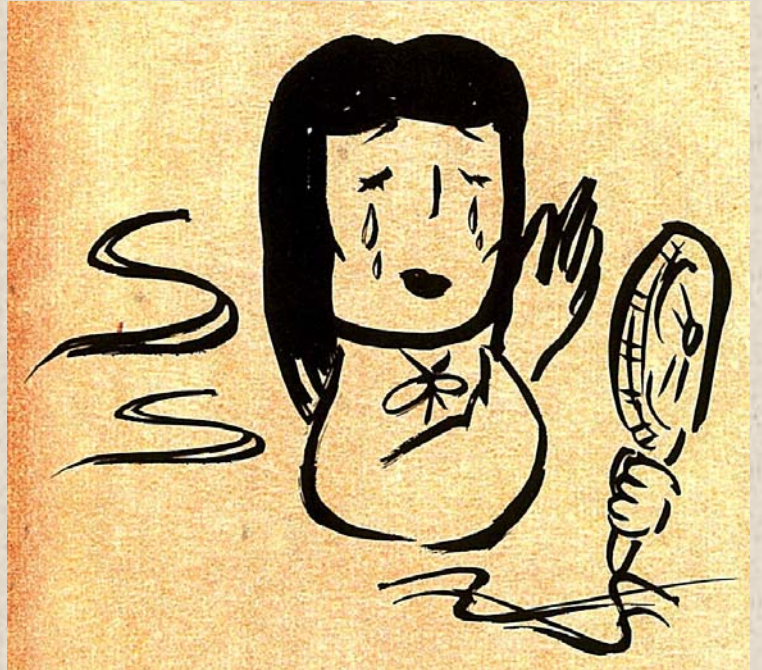
(米良地方)

銀鏡しろみ ゆらいの由来となったイワナガヒメは、「米良めら」という地名ちめいについても、その由来ゆらいとなる物語ものがたりを持っています。

イワナガヒメは、一ツ瀬川ひとつせがわをさかのぼって米良山中めらさんちゅうへ向かい、今の穂北いま ほきたの笹ささの元もとから竜房山たつふさやまを経て小川おがわに出向きました。

その後、自ら田たをつくり、実りゆたかな収穫しゅうかくを見て、「ヨネヨシヨネヨシ」  
(米良こめよし、米良こめよし)と喜びました。

これが「米良」の名の起こりであるといわれています。



みのう はっほうづか きゅう やま なが た  
三納には、八方塚という 1000m 級の山が1つあり、そこから流れ出した九  
かわ かしょ あつ くる す  
つの川が1ヶ所に集まったところが九流水です。

くる す てら まえ かわしも ほう む おお ちち ふしぎ  
その九流水のお寺の前に、川下の方を向いた大きな乳がある不思議なエノキ  
き は ちぶさ ちち なが ちち くら ちち くら  
の木が生えていました。その乳房からは乳が流れていたことから、村人はこの木  
ちち き よ  
を「お乳の木」と呼んでいました。

ちの こ も はおや ちち で ちち き まい  
乳飲み子を持つ母親たちは、乳が出なくなると「お乳の木」にお参りしまし  
た。すると、不思議なことにお乳が出るようになるので村中の評判になり、遠  
ふしぎ ちち で ちち くら ちち くら  
い所からもお参りに来るようになりました。

とし はたけ ちち き ね き  
ある年、畑にのびてきた「お乳の木」の根を切ってしまいました。

すると、だんだんお乳も出なくなり、「お乳の木」は枯れてしまいました。

むら ふきつ  
それからは村に不吉なことばかりが  
お よくとし たいこうずい  
起こり、翌年には大洪水になりました。

むらびと そうだん か  
村人は相談して、代わりになるエノキ  
き となりむら ほきた み  
の木を、隣村の穂北でどうにか見つけ、  
もと ばしょ う  
それを元の場所に植えつけました。

ふしぎ とし  
すると不思議なことに、その年から  
こうずい ほうさく つづ  
洪水もなくなり豊作が続きました。やが  
てこのエノキの木もぐんぐんとえだ  
き  
び、2つの乳房が出てお乳が滴り始め  
ちぶさ で ちち したた はじ  
ました。

きんりん むらむら  
ふたたび近隣の村々などからこのお  
ちち き まい ひと おお  
乳の木にお参りする人が多くなったと  
いうことです。





めぐりぶち いま あさ たにがわ いたやがわ ぶち なが ぜんちょう  
 曲 淵は、今でこそ浅い谷川（板谷川）ですが、かつてこの淵の長さは全長  
 はば 24m ほどのやや曲がった深い淵で、水神の邸とされており、勘介  
 ふうふ かな ものがたり つた  
 とチヨ夫婦の悲しい物語が伝えられています。

～ 勘介とカッパ ～

ある日、勘介はこの川筋の見回りを行っていました。先の大雨で川の水かさ  
 がふい 増えて橋が1本壊れたため、勘介が橋をかけるための石積みをしていたとこ  
 ろ、カッパを見つめました。勘介は、

「この間から石積を片っ端から崩しているのはこいつだな」と感づき、  
 カッパに飛びついて捕まえ、カッパを家の納屋の柱にくくりつけました。  
 その後、カッパは縄を切り、川の方へと逃げ去りました。夕方帰宅した勘介は、  
 なに 何もとがめる事無く、

「これでカッパもいたずらを止めるだろう」と言いました。



～ チヨの祈願 / 豊猟によろこび ～

猟の好きな勘介でしたが、とある秋、どうも猟がうまくいきませんでした。  
 チヨは勘介を心優しく慰め、昔から水神様の淵と噂される曲淵へ行き、

「勘介の猟が効くように、来春の彼岸までに私の命をお預けします。」

と曲淵水神に三日間通い続けて祈願しました。その後、勘介は猟にできれば  
 いのしし しか も かえ とし ほうりょう  
 猪や鹿を持ち帰り、その年は豊猟でした。

～ チヨの死～

春が近くなったある日、チヨは満願の御礼に曲淵の岩の前に立ち、しばらく  
 の猶予をお願いし、家に帰りました。

しかし、家にたどりついた時、パッタリと倒れ、息絶えてしまいました。

勘介は驚き、悲しみ嘆きました。

勘介はチヨを懇ろに葬り、曲淵の辺りに小さな祠を建て、ここに水神を祀  
 り、100日間参り続けました。その後、勘介は神事を習い、曲淵水神の神主と  
 なり、チヨの霊を弔ったと言われています。

にしめらそん むかし おお いし ひつ しほう  
西米良村には昔から大きな石の櫃（4～5m四方）がありました。

とき おに まいばんまち むら あら まわ たからもの ぬす ひつ なか  
ある時、鬼どもが毎晩町や村を荒し廻って宝物を盗んできては、この櫃の中  
かく  
に隠していました。

し むら ひとびと ひつ あ さが あ と たからもの と  
これを知った村の人々は、この櫃の在りかを探し当てて取られた宝物を取り  
かえ  
返すことにしました。

たいへん  
「さあ大変」

おに おお いしひつ も に こと  
と鬼どもは、この大きな石櫃を持って逃げる事にしました。

めらがわ くだ はじ こしのお てまえ き よる あ  
米良川を下り始めましたが、越野尾の手前に来たところで夜が明けてしま  
ました。

かわ なか お いしひつ み まち むら ひとびと たからもの と もど  
川の中に置いてある石櫃を見つけた町や村の人々は、宝物を取り戻そうと  
しましたが、はら がせくやら、あたま がうなるやらで、とうとう あきら かわ なか お  
かえ  
たまま帰りました。

ひ やまし たち が この 櫃 の そば で 暖 を 取る 為 に 火 を たい いて いました。 する  
いし ひつ が 「ウオーン、ウオーン」と音を出してうなりだし、おどろ やまし  
は 道具 など ほっぽり だ して 逃 げ ました。

ご その後、トモース、カッチンと伝え、この石を鬼櫃と言うようになりました。

げんざい ひつ きゅうしゅうでんりょくひとつせがわでんげんかいはつこうじ さい ばくさい ひとつせ  
現在、この櫃は九州電カーツ瀬川電源開発工事の際に爆砕され、一ツ瀬ダ  
ム こてい しず 湖底に沈んでいることから、見ることはできません。

むかし めら さとにウルシを掻いで、その汁（漆）を集めて暮らしている兄弟  
がいました。

兄がいつものように山で漆を掻いている時によき（斧）を川の中に落として  
しまいました。兄が水に飛び込み淵の底を探していたところ、驚いたことに、  
淵の底一帯には、漆がゆったりと溜まっていた。兄はずっと昔、この辺に  
はウルシの大木が沢山生えていたという話を思い出しました。洪水のとき、ウ  
ルシが倒れたり皮がはげたりして、雨に流されて漆が淵に溜まったのです。兄  
は淵の漆を取って、売りに行ったところ、その漆は高く売れました。

弟は、このごろ兄が一人で漆を取りに行くことや、上等の漆を取ってく  
ることが気になっていました。そこで、弟は兄の後をつけ、淵の漆の秘密を  
知り、兄に隠れて淵の漆を取るようになりました。それに気づいた兄は、どう  
したらひとりじめできるかと考えました。

ある時、兄は木彫りの龍を買い、その龍を淵に入れ、水の力で自然に動く  
ように仕掛けようと考えました。その龍を淵に入れる時に、  
「龍よ。この淵の漆を守るのだ」と、龍に話しかけました。

弟が、いつものように漆を取りに潜ると、恐ろしい龍が襲いかかってき  
たため逃げ帰りました。それを見て兄は安心し、次の日、淵にゆっくりと潜っ  
ていきました。すると、目玉をぎらつかせた龍が急に襲いかかり、今にも兄を  
飲み込もうとしたため逃げ帰りました。木彫りの龍に、いつの間にか魂が入  
っていたのです。それからは、二人とも、淵の漆を取りに行くことができませ  
んでした。兄は、弟と仲良く漆を取ればよかった、と後悔しました。淵には、  
上等の漆が沢山残っていたのですから・・・。

実際に西米良村の小川に蛇淵は存在します。周辺の岩は削られて深い渓谷  
になっていますが、蛇淵だけは白くてスベスベした花崗岩が細長く走っており、  
削り残されて滝となり、真下に深い淵ができています。

周辺の崖地に見られる植物の中には紅葉が美しく、漆液をだすと言われ  
るハゼノキ・ヤマハゼ・ヤマウルシが多く生育しています。この周辺で漆を  
栽培したという記録はありませんが、蛇淵の底に漆が溜まっていたという話  
には真実があります。



### ③ 流域の産業

### りゅういきのさんぎょう

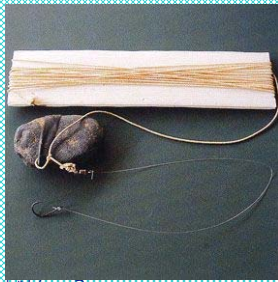
#### (1) 水産業と漁法

一ツ瀬川には、昔からたくさんの魚介類が生息しており、これらの魚介類は周辺に住む人々にとっての貴重な食料源となっていました。しかし、魚がいれば食料になるわけではなく、当然、まずは魚をとらなければなりません。現在では投網、金つき、かご、釣りなどが行われていますが、昔の一ツ瀬川では、いろいろ工夫された様々な漁が行われていました。

#### 現在の漁法



写真：友釣り（アユ）



写真：釣り（カセバリ）



写真：金つき



写真：かご（蟹かご）



写真：ウナギタカンボ

どうやって使うんだろ  
う？調べてみよう！



#### 昔の漁法（昭和30年くらいまで）



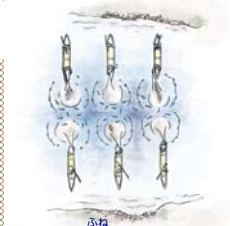
竹芝つけ



チヌかご



センつなぎ



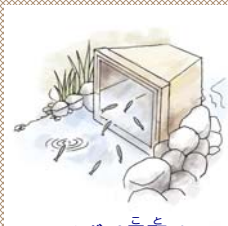
船うち



建て網



戸板引き



ノポリ子取り



帆掛り引き



流し



待ち網



帆掛釣り



うくい（うぎい）

## (2) 製塩業

ひとつせがわ かこうふきん しょうわ けんないゆうすう せいえんち  
一ツ瀬川の河口付近は、昭和のはじめまで、県内有数の製塩地でした。しか  
じだい とも えんでん すいでん ようまんじょう か  
し時代と共に、かつての塩田だったところは水田や養鰻場へと変わってしま  
げんざい くわ いがい おもかげ のこ  
い、現在では区割り以外には面影がほとんど残っていません。  
ところで、「塩」はどうやって作られるのか、知っていますか？

## (3) 林業

ひとつせがわ じょうりゅう しいばそん にしめらそん ひゆうがちほう きゅうしゅうさんち よ  
一ツ瀬川の上流、椎葉村や西米良村がある日向地方の九州山地には、良  
もくざい と ゆうめい むかし りんぎょう さか めいじじだい  
い木材が取れることで有名であり、昔から林業が盛んでした。明治時代まで  
は主にマツが切り出され、その後はスギ・ヒノキの植林が栄えました。  
たいしょうじだい き だ まるた ひとつせがわ なが かこう はこ  
大正時代までは、切り出した丸太はそのまま一ツ瀬川を流して河口まで運  
ぶね にほんぜんこく しゅつが たいしょうじだい つません てつどう かいつう  
ばれ、船で日本全国に出荷されていました。大正時代に妻線（鉄道）が開通し  
てからは、げんざい さいとしすぎやす ひとつせがわ なが ひろ あ せいざい  
現在の西都市杉安まで一ツ瀬川を流し、そこで拾い上げて製材して、  
かもつれっしゃ ぜんこく しゅつが  
貨物列車で全国へと出荷されていきました。

おも もくざい かわ なが はこ  
重い木材は、川に流して運  
べば楽に運べるんだ！



写真：木馬を使った木材の運搬

## (4) 製炭業

西米良村には、炭の原料になる良い木材が昔から豊富にあったのですが、交通の便が悪かったためにほとんど作られていませんでした。しかし明治時代に県道が開通すると、急激に炭が作られるようになり、昭和20年代には炭の生産量が“日本一”になりました。現在は炭の利用が減少し、かつての繁栄を見ることができなくなりました。



写真：炭焼小屋（イメージ）

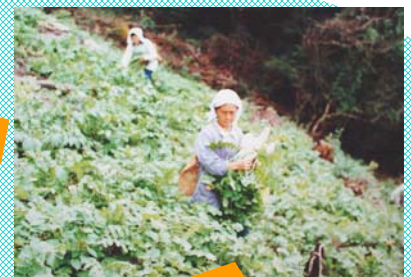
## (5) 農業 - 焼畑（コバ）

米良地方は、そのほとんどが急な斜面を持つ山で形成されているので、ほとんど畑を作ることができませんでした。そのため、山の斜面の樹木を切り、草や低木を焼き払って畑を作り出す「焼畑」が行われていました。大木を切って木材や炭の原料として売り、残った草木や低木を焼き払い、畑にして作物を栽培し、土の養分がなくなったら15年くらい手をつけずに放っておいて、再び樹木が茂ってきたら、その樹木を切って木材に・・・というように、限られた資源をうまく活用する生活の仕組みを作りだしていました。

### 焼畑の仕組み

貴重な食料源の糸巻き大根です

野菜を収穫している様子です



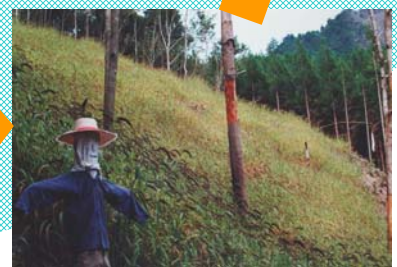
養分がなくなると、再び樹木が育つまで放置しておき、再び活用していきます。



森を切り開き、草木を焼きます



焼けた灰を肥料にして、畑にします



穀物が育った様子です

(6) 農業 -各地の農作物-

ひとつせがわ りゅういき へいやぶ ちゅうしん のうぎょう さか おこな へいち  
 一ツ瀬川の流域は、平野部を中心に農業が盛んに行われています。平地で  
 いなさく おこな だいち はたけ つく さいとし ぜんこくゆうすう  
 は稲作が行われ、台地では畑が作られています。西都市などでは全国有数の  
 のうさくもつ せいさんち ひんもく  
 農作物の生産地となっている品目もあります。  
 どこで何が作られているか、わかるかな？

しいばそん  
椎葉村



むら そうとちめんせき べ-せと さんりん おお なつ  
 村の総土地面積の96%（ほとんど）を山林で覆われているため、夏  
 すず きこう い なつあきやさい きく はな せいさん  
 の涼しい気候を活かし、夏秋野菜や菊などの花が生産されています。そ  
 ほか ぜんこくゆうすう せいさんりょう ほこ せいさん さか  
 他、全国有数の生産量を誇るシイタケや、ソバの生産も盛んです。

むら そうとちめんせき べ-せと さんりん げんや おお  
 村の総土地面積の96%（ほとんど）を山林や原野で覆われており、  
 ユズやホオズキなどが生産されています。また、パンジーやスターチス  
 はな なえ さいばい おこな  
 といった花の苗の栽培も行われています。

にしめらそん  
西米良村



さいとし  
西都市



やさい ちゅうしん えんげい くわ いなさく さか おこな  
 野菜、くだものを中心とした園芸に加え、稲作も盛んに行われてい  
 ます。中でも、ユズ、マンゴー、キンカン、葉タバコは全国有数の生産地  
 なが は ぜんこくゆうすう せいさんち  
 です。しかし、なんといいてもピーマン、スイートコーン、にがうりは、  
 ぜんこく だい い せいさんりょう ほこ  
 全国で第1位の生産量を誇ります。

おんだん ひ きこう りょう えんげい さか  
 温暖でよく陽のあたる気候を利用した園芸が盛んで、キュウリ、ニガ  
 ウリ、トマト、ショウガ、ユリなどの花、などの栽培が盛んです。特に  
 テッポウユリは県内第1位の生産量を誇り、品質も評判も良い佐土原  
 けんないだい い せいさんりょう ほこり ひんしつ ひょうばん よ さどわら  
 ブランドを作っています。

さどわらちゅう  
佐土原町



しんとみちゅう  
新富町



すいでん はたけ はんぶん わりあい のうぎょう おこな すいでん  
 水田と畑がほぼ半分ずつの割合で農業が行われています。水田  
 ちたい そうきいなさく たかだい はたちちたい は ちゃ はな さいばい  
 地帯では早期稲作、高台の畑地地帯では、葉タバコ、茶、花などが栽培  
 ほか せいさん ゆうめい  
 されています。その他に、ソバの生産も有名です。

# ④ 流域の交通

## りゅういきのこうつう

ひとつせがわ りゅういき さまざま こうつうしゅだん はったつ  
 一ツ瀬川の流域には、様々な交通手段が発達してきました。  
 くまもと さどわら しるしたちょう あいだ ふる めら かいどう はし たいせつ こうつうろ やくわり  
 熊本と佐土原の城下町との間には、古くから米良街道が走り、大切な交通路としての役割を  
 は果たしてきました。

もくざい りゅういき さんぶつ ひとつせがわ つか しゅううん かこう ふくしまこう はこ  
 木材をはじめとした流域の産物は、一ツ瀬川を使った舟運で河口の福島港まで運ばれていま  
 した。そのほかの交通手段として、人々が舟、箆板、徒歩などで川を渡るための「渡し」や、妻線  
 と呼ばれる鉄道もありました。

こうした交通手段は、時代の流れとともに徐々にその役割を終え、今日に至っています。



いま どうる  
 今は道路しかないけど、  
 むかし  
 昔はいろんな乗り物や  
 みち  
 道があったのね

### 3 流域の交通

- 1) 街道 (米良街道)
- : 米良街道 (国道219号)
  - : 旧米良街道 (米良往還)
  - - - : 旧米良街道 (球磨往還)
  - : 尾泊
- 2) 鉄道 (妻線)
- : 妻線
  - : 駅
  - ・ 杉安駅
  - ・ 穂北駅
  - ・ 妻駅
  - ・ 黒生野駅
  - ・ 西佐土原駅
  - ・ 佐土原駅
- 3) 舟運
- : 福島港





## (1) 街道（米良街道）

米良街道は、佐土原から一ツ瀬川に沿って西の九州山地に向かい、米良山の横谷峠を越えて熊本県へと続いています。米良街道には、かつては狭くて急な道が多く、人や牛馬はとても苦労して街道を行き来していました。やがて、道幅が広げられたり、街道の通る場所が変更されたりしたため、今では大きなトラックが通れる道になっています。

昔はこういう車が走ってたんだね！



写真：オート三輪車

写真：木炭で走る自動車



## (2) 鉄道（妻線）

妻線は、大正の初めから昭和の終わりごろまで、宮崎から佐土原を通り、杉安に至る区間に走っていました。妻線は、沿線の人々の足として、さらに米良方面の山から採れる産物を運搬する手段として、活躍していました。しかし、自動車の普及などにより、少しずつ乗客や運搬する荷物が減り、昭和59年に廃線となりました。



写真：杉安駅舎



写真：在りし白の杉安駅ホーム

線路や駅は、今どうなっているんだろう？



### (3) 舟運しゅううん

かつて、しいばそん にしめらそん 椎葉村や西米良村から切り出されたき だ もくざい 木材などは、ひとつせがわ なが 一ツ瀬川を流して  
かこう ふくしまこう 河口の福島港まで運ばれていました。ふくしまこう かんさいほうめん む 福島港では、関西方面に向かう荷物の積み  
お かつぱつ おこな 降ろしが活弁に行われ、みなと しゅうへん たいへん 港の周辺は大変にぎわっていました。

また今ではいま 一ツ瀬川の各所に橋が架かっています。しかし、かつて人々は「ひとつと わた 渡し舟」と呼ばれる舟で川を渡っていました。



写真：昭和30年代の渡し船

## ⑤ 流域の建造物

## りゅういきのけんぞうぶつ

ひとつせがわ りゅういき  
一ツ瀬川の流域には、はるか昔に築かれた興味深い建造物がいくつもあります。

むかし ひとびと  
昔の人々は、なぜこれらを造ったのでしょうか？そして、どのように使っていたのでしょうか？

けんぞうぶつ  
建造物のいくつかを見てみよう。

## (1) 川と住居の建て方の関係 -西都市銀鏡地区では-

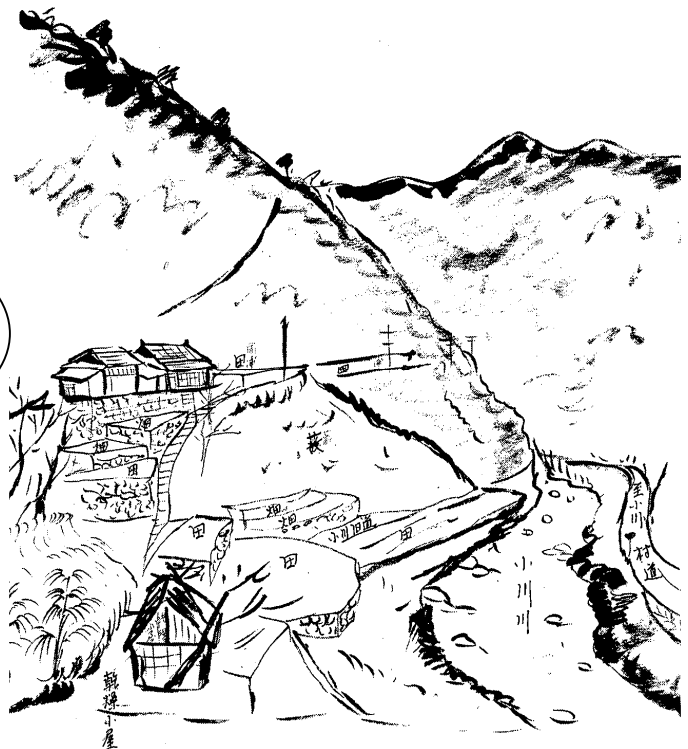
さいとししろみちく  
西都市銀鏡地区では、住居は母屋の方位を南向きにとることが基本であり、北向きには建てないという伝承が強く残っています。この考え方は、良い飲料水が取れるかどうかということです。

すいりもとかせんせつきんはんめんすいがいきけんのが  
しかし、水利を求めて河川に接近する反面、水害の危険からも逃れなければなりません。よって、川に近く緩い斜面の土地が居住地として選ばれています。

じっさいへいちどうろぞさんちちゅうぶくかわぞかわちがけいしゃとち  
実際は、平地や道路沿い、山地の中腹、川沿いや、川に近い傾斜の土地などに職業や産業との関係を考えて作られています。



いえ た  
家が建てられている場所  
には、いろんな理由がある  
んだね



絵：昔の越野尾地区（出典：古里越野尾）

## (2) 城

とのこおりじょう いま よねんまえ いたうし  
都於郡城は今から 600余年前に伊東氏  
の祖先である伊東大和守祐持が築いたもの  
と伝えられています。

まわ がけ かこ たかだい うえ  
廻りを崖に囲まれた高台の上であり、  
せいほくほう さんざいかわ なが しゅうい てき  
西北方には三財川が流れ、これが周囲の敵  
から城を守る役割を果たしていました。

とお なが ようす ぶね う  
遠くから眺めた様子が、舟が浮いている  
ように見えたことから、別名「浮舟城」  
と呼ばれています。



写真：都於郡城跡  
出典：さいと-古代ロマンとあふれる自然

## (3) 古墳群

こふん けんりょく ほうぞく はか  
古墳とは、かつて権力をふるっていた豪族の墓のことをいいます。

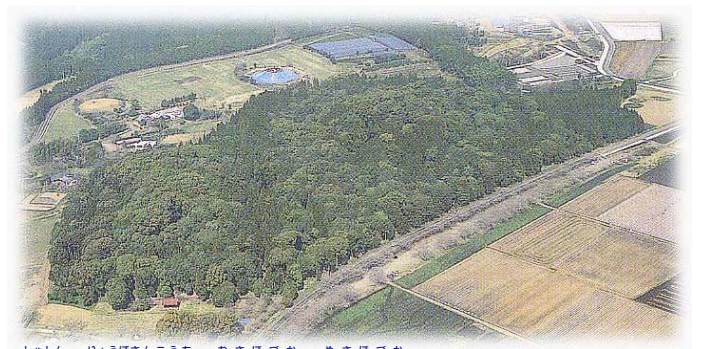
ひとつせがわりゅういき とくべつしせきこうえん さいとばるこふんぐん さいとし かずかず  
一ツ瀬川流域は、特別史跡公園の西都原古墳群（西都市）をはじめ、数々の  
こふん だいち さんざい こくない かくかせん りゅういき なか とく こふん かず おお  
古墳が大地に存在しています。国内の各河川の流域の中でも特に古墳の数が多  
く、また種類も多く、さらに古墳の大きさも随一です。



写真：飯盛塚



写真：鬼の窟古墳



写真：陵墓参考地（男狭穂塚、女狭穂塚）

## ⑥ 流域の土木構造物 りゅういきのどぼくこうぞうぶつ

ひとつせがわ りゅういき ひとびと く ささ どぼくこうぞうぶつ  
一ツ瀬川の流域には、人々の暮らしを支えるさまざまな土木構造物があります。

なかでも、なが ねんげつ わた くら しを ささ つづ しせつ どぼくいさん よ どぼくいさん  
なかでも、長い年月に渡って暮らしを支え続けてきた施設を「土木遺産」と呼びます。土木遺産  
なか げんえき かつやく やくめ お やくめ  
の中には、いまだに現役で活躍しているものもあれば、その役目を終えたものもあります。役目  
お しせつ はたら かんしゃ たいせつ ほぞん  
を終えた施設であっても、それまでの働きに感謝し、大切に保存されているものもあります。

### (1) 堰

かわ のうち みず ひ い もくてき かわ すいい たか  
川から農地に水を引き入れることなどを目的として、川の水位を高めるため  
かわ なが と しせつ せき ひとつせがわ すぎやすいぜき  
に、川の流れをせき止める施設を堰といいます。一ツ瀬川にも、杉安井堰や  
かねまるぜき せき すぎやすいぜき え どじだい たいへん  
金丸堰など、いくつかの堰があります。なかでも杉安井堰は、江戸時代、大変な  
こうじ すえ かんせい いらいおお たはた うるお  
工事の末に完成し、それ以来多くの田畑を潤してきました。

めいじじだい かんせい かねまるぜき つづ いくらようすいろ すいでん かんがい やく  
また、明治時代に完成した金丸堰とそれに続く伊倉用水路も、水田の灌漑に役  
だ  
立っています。

えどじだい たいへん こうじ  
江戸時代の大変な工事  
ってどんな工事だろう？



写真：金丸堰



写真：杉安井堰

### (2) 橋梁

ひとつせがわりゅういき りゅういき く ひとびと おうらい ささ おお はし か  
一ツ瀬川流域には、流域に暮らす人々の往来を支える、多くの橋が架かって  
います。また、その種類も様々です。潜水橋と呼ばれる橋は、洪水になると水没  
しゅるい さまざま せんすいきょう よ はし こうずい すいぼつ  
し、通行不能となってしまいます。なぜでしょう？ それは、洪水時の水の抵抗  
つうこうふのう こうずいじ みず ていこう  
をできるだけ少なくし、橋自体が流されないよう工夫されているためです。そ  
すく はしじたい なが くふう  
のほかにも、ひやっけんばし よ もくきょう つりばし かきようぎじゆつ すい あつ めら かいどう  
ひやっけんばし よ もくきょう つりばし かきようぎじゆつ すい あつ めら かいどう  
のほかに、百間橋と呼ばれる木橋や吊橋、架橋技術の粋を集めた米良街道の  
きょう はし  
11橋など、いろいろな橋があります。

# 橋 いろいろ...



写真：千田潜水橋



写真：一ツ瀬11橋



写真：柳瀬潜水橋



写真：千畑潜水橋



写真：福島潜水橋



潜水橋には欄干がないものが多いみたい。なぜだろう？



いろいろな種類の橋があるんだね。

## (3) 砂防施設

山から流れる土砂を抑えて、川の流れを安定させ、災害を防ぐための施設を砂防施設といいます。一ツ瀬川流域では、黒木正英旧三納村長が砂防施設の設置に力を尽くし、「砂防村長」と呼ばれていました。

## (4) その他

他にも、川郎淵隧道など、一ツ瀬川流域には人々の暮らしを支え続ける数多くの土木遺産があります。



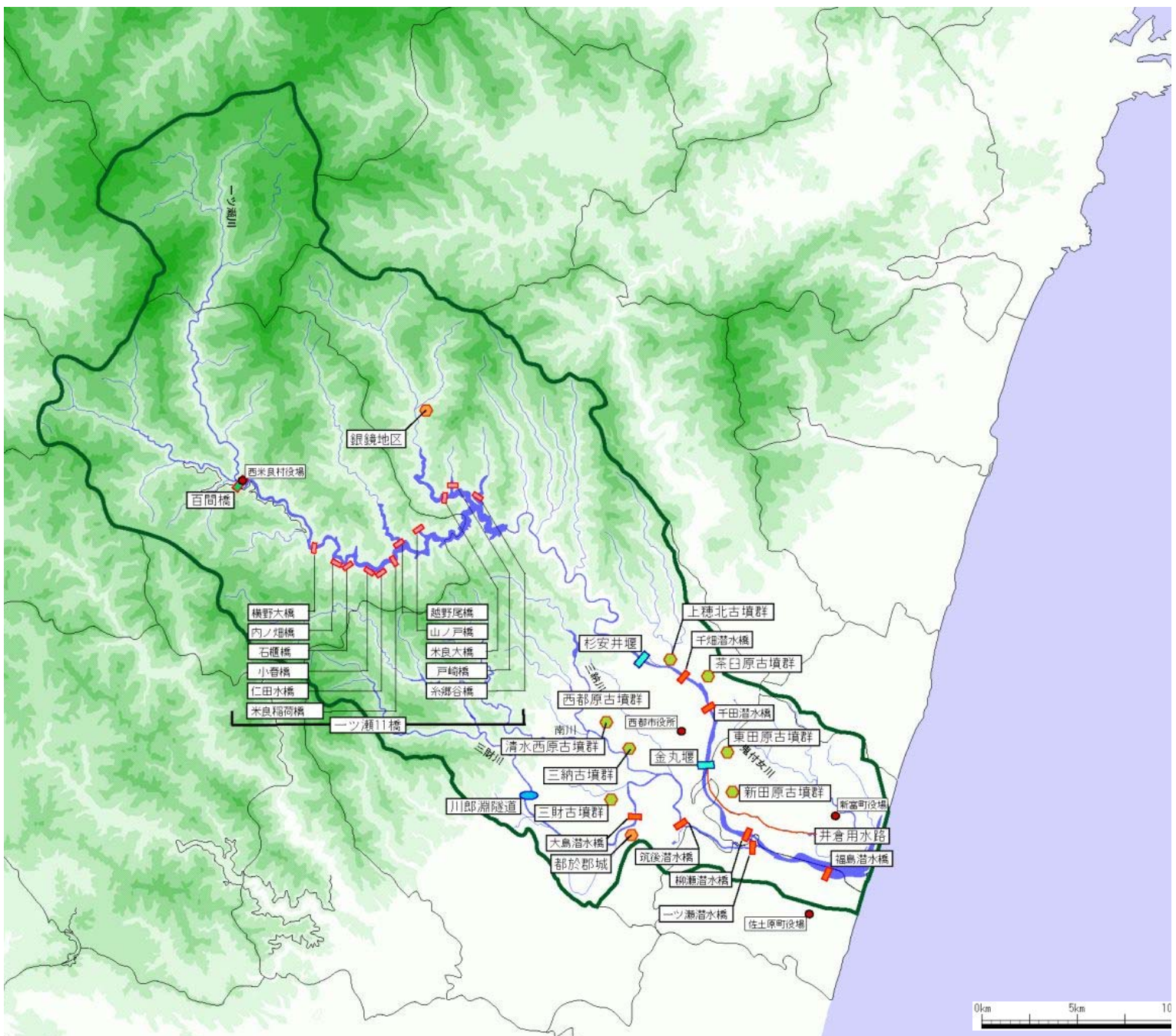
どこにどんな遺産があるのか、<sup>い</sup>見つめてみよう！  
もう、<sup>し</sup>知っていたかな？

### ⑤ 流域の建造物

- 1) 川と住居の建て方 (西都市銀鏡地区) ●
- 2) 三財川と都於郡城 (西都市) ●
- 3) 古墳群 (西都原古墳群と一ツ瀬川流域の古墳群) ●

### ⑥ 流域の土木建造物

- 1) 堰 ■
  - i) 杉安井堰
  - ii) 金丸堰
- 2) 橋梁
  - i) 潜水橋 ■
  - ii) 百間橋 ■
  - v) 一ツ瀬11橋 ■
- 3) その他の土木遺産
  - i) 井倉用水路 —
  - ii) 川郎淵隧道 ●



# ⑦ 流域の文化人 りゅういきのぶんかじん

ひとつせがわ りゅういき おお ぶんかじんたち はいしゅつ じぶんたち  
 一ツ瀬川の流域は、多くの文化人達を輩出してきました。自分達のふるさと  
 にはどんな人がいたのか、知っていますか？

## いとう 伊東マンショ



いとう 伊東マンショは、都於郡 城主の  
 いとうけ まつえい けんおうしせつ とおう  
 伊東家の末裔で遺欧使節として渡欧し  
 じんぶつ はは おじ おおともそうりん えん  
 た人物です。母の伯父、大友宗麟の縁で、  
 マンショが遺欧使節に加わったのです。  
 いま 400年くらい前のことです。  
 欧州に着いたマンショたちは、欧州  
 かつこく こくおう きょうこう えっけん やく ねん 8  
 各国の国王や教皇に謁見し、約8年後  
 に帰国しました。この使節の果たした  
 さいだい やくわり とうじ せいおうしゃかい にほん  
 最大の役割は、当時の西欧社会に日本の  
 存在を知らせるとともに、印刷などの  
 せいようぶんか も かせ  
 西洋文化を持ち帰ったことです。

## きくちけ めらけ 菊池家(米良家)

きくちけ めらけ にしめらそんおよ  
 菊池家(米良家)は、西米良村及  
 きゅうひがしめらそん ちゅうしん  
 び旧東米良村を中心とした  
 めらちほう おさ りょうしゅ  
 米良地方を治めていた領主とし  
 て、一ツ瀬川流域の人々に広く知ら  
 れる文化人の家系です。

ふる 古くは藤原鎌足の末裔といわ  
 れ、江戸時代には米良14カ村を治  
 め、小川に城を設けていました。  
 めいじじだい じぶん も とち くに  
 明治時代に自分が持つ土地を国に  
 がえ 返すことになったときに、国ではな  
 く全てを領民に分け与えたことか  
 ら、村民から感謝され、大変慕われ  
 ています。



写真：武夫公



写真：則忠公銅像

## こだまきゅうえもん 児玉久右衛門



こだまきゅうえもん すぎやすいせき けんせつ  
 児玉久右衛門は、杉安井堰を建設した  
 とぼくぎじゅつしゃ  
 土木技術者です。  
 こだまきゅうえもん げんろく ねん 1689年  
 児玉久右衛門は、元禄2年(1689年)  
 ほきたごう しょうや むすこ う  
 に穂北郷の庄屋の息子として生まれま  
 した。ところが、この地帯は水利の便が  
 ひじょう わる、とれるお米は年貢の10分  
 ていど せんぞだいたいひ つ のうち  
 の1程度で、先祖代々引き継がれた農地  
 てばな のうか すく  
 を手放す農家も少なくありませんで  
 した。これを見かねたきゅうえもんは、めらがわ  
 げんひとつせがわ みず ひ すいでん  
 (現一ツ瀬川)より水を引き、水田の  
 ぞうせい おこな こめ しゅうかくりょう  
 造成を行うことにより米の収穫量を  
 ぞうか かんが じっこう  
 増加させることを考え、実行しました。  
 ひとつせがわ すぎやすとうしゅこう  
 一ツ瀬川の杉安頭首工のほとりにあ  
 る「西都市土地改良歴史資料館」では、  
 きゅうえもん いぎょう のうぎょうのうそんせいび  
 久右衛門の偉業や農業農村整備につい  
 ての展示があり、たくさんの方が訪れ  
 ています。



- ほか 他にもこんな人たちが・・・
- 古月禅師 (江戸時代の高僧)
  - 木喰上人 (仏像彫師)
  - 金丸惣八 (金丸堰)
  - 松本覚兵衛 (伊倉用水路)
  - 黒木正英 (砂防村長)



# ⑧ 流域の民芸・芸能・まつり りゅういきのみんげい・げいのう・まつり

## (1) 流域の民芸 りゅういき みんげい

りゅういき みんげいひん さどわらはんじだい ぶんが つた へいやぶ しゅうちゅう  
 流域の民芸品は、佐土原藩時代の文化が伝わる平野部に集中しています。

### しゃんしゃん馬 うま



さどわら つまちほう う どじんぐう まい しんこんふうぶ はなよめ  
 佐土原や妻地方において、鵜戸神宮へお参りをする新婚夫婦の花嫁を  
 うま はなむこ たづな すがた しょうちよた がんく  
 馬にのせ、花婿が手綱をひいた姿の情緒豊かな玩具です。

とらい 渡来してきた朝鮮の人々が戯れに人形を作ったのが始まりとされ  
 ます。明治初期から大正時代には人形作りが盛んでしたが、14軒あ  
 った窯元も戦後は殆どが絶え、現在は佐土原町内に2軒ある製作所で  
 のこ 残された型を基に復興されています。

### さどわらにんぎょう 佐土原人形



### さどわら はごいた 佐土原の羽子板



ぜんちょう 全長20cmのやや幅の広い板です。佐土原地方では、正月に女兒の  
 しゅうぎ はごいた おく ふうしゅう しょうわしよき つづ しいだ  
 祝儀に羽子板を贈る風習があり、昭和初期まで続いていましたが、次第  
 になくなっていきました。

ぶんぐるまとは竹製の「うなりごま」のことで、佐土原では春の市に  
 なるとう売られていたので「春ごま」ともいいました。上下の蓋に塗った  
 あか どう くる うつく ふうが たけ 美しいコントラストとなり、風雅な竹ごまとなってい  
 ます。

### ぶんぐるま



### ひさみね くるま 久峰うすら車



ひさみねかんのん えんめいちようじゅ むびょうそくさい えんぎもの ぜんこく よ し  
 久峰観音の延命長寿、無病息災の縁起物で全国でもよく知られる  
 きょうどがんく き つく そぼく かたち うつく なんこくてき あか  
 郷土玩具です。タラの木で作られ、素朴な形の美しさと南国的な明るい  
 はいしよく もんよう とくしよく  
 配色と紋様が特色です。

## (2) 流域の芸能

この流域は、県境の峠を越えて人吉へ近いことから、熊本との関わりが強く、文化の影響を多く受けています。伝承芸能のなかでは山間部の神楽、平野部の臼太鼓踊りと風流踊りなどが、代表的なものです。

### 米良神楽 (村所・銀鏡神楽)



かつての東米良・西米良の山中に生き続ける「村所神楽」と「米良神楽 (銀鏡神楽)」はともに古い歴史と様式を持つ芸能です。「村所神楽」は南北朝の頃に武将菊池氏が、懐良親王の一子、良宗親王を奉じて米良に入山した際に西米良に移し広めたとされています。その後「米良神楽 (銀鏡神楽)」が、東米良に入ってきたと伝えられています。

### 臼太鼓踊り



西都市とその周辺は多くの民俗芸能を伝承する地域です。伝統を誇る下水流地区の「臼太鼓踊り」は、跳躍と縦横の激しい動きを伴ったダイナミックな太鼓踊りです。西都市と隣接する佐土原町にも臼太鼓踊りが伝承されており、由来と形式については下水流地区のものと同一であり、奉納される時期から「十五夜踊り」とも呼ばれています。

### いろは口説き

佐土原町堤地区をはじめとする各地区に「いろは口説き」の盆踊りが伝承されています。「佐土原盆踊り」はこの口説きを中心に、浴衣に編笠そして手に扇子という装束の踊り子が初盆の家を回って供養する江戸時代からの風習です。踊りには「たかとび」「やっこせ」「四つ竹」などいろいろな振りがあり、地区によって色合いが異なります。

### 民謡

一ツ瀬川に関係の深い民謡として、一ツ瀬川下の民謡が伝承されています。米良から切り出された良質の木材は、流れに乗って一ツ瀬川を下っていきます。その作業のときに歌われていたのが、「木出し・木遣りの歌」や「エンサー」と呼ばれる木遣歌です。旋律は伊勢音頭のようにでぎやかな囃子がつきました。

♪ドットコエーイ そこで ドットコセー  
花は花だよ エー そこで ドットコセー♪

### (3) 流域のまつり

流域の祭りは、大きく「山のまつり」「平地のまつり」に分けることができます。「山のまつり」には、焼畑や狩猟の儀礼が取り入れられ、「平地のまつり」には稲作の儀礼が見られます。そこには、その土地に適合しようと工夫して生活してきた人々の歴史があり、産業そのものが祭りの伝統を支えてきました。生きるための暮らしの文化の一つが「伝統のまつり」となっています。

#### 春のまつり

春おびしゃ  
弓の口あけと春奉射  
銀鏡の春まつり  
毘沙門天祭

#### 厄除け・夏まつり

ダゴツヤとダゴまつり  
愛宕神社の喧嘩だんじり  
イブクロ

#### 十五夜

都萬神社の更衣祭

#### 鎮魂・供養のまつり

御武者まつり  
山陵祭（西都古墳まつり）

#### 予祝祈願・冬まつり

巖流神社例大祭  
速川神社例大祭  
米良山の願立てと願成就  
東西米良の冬まつり

#### 諏訪・稲荷のまつり

狭上稲荷冬まつり  
児原稲荷例大祭

#### 信仰のまつり

観音まつり（長谷観音）  
地藏まつり（石野田地蔵）

昔からあるおまつりっ  
て、たくさんあるんだね！



#### 節分・仏教行事

吉祥寺の鬼子母神縁日

おまつり、だーいすき！



# ⑨ 流域の遊び

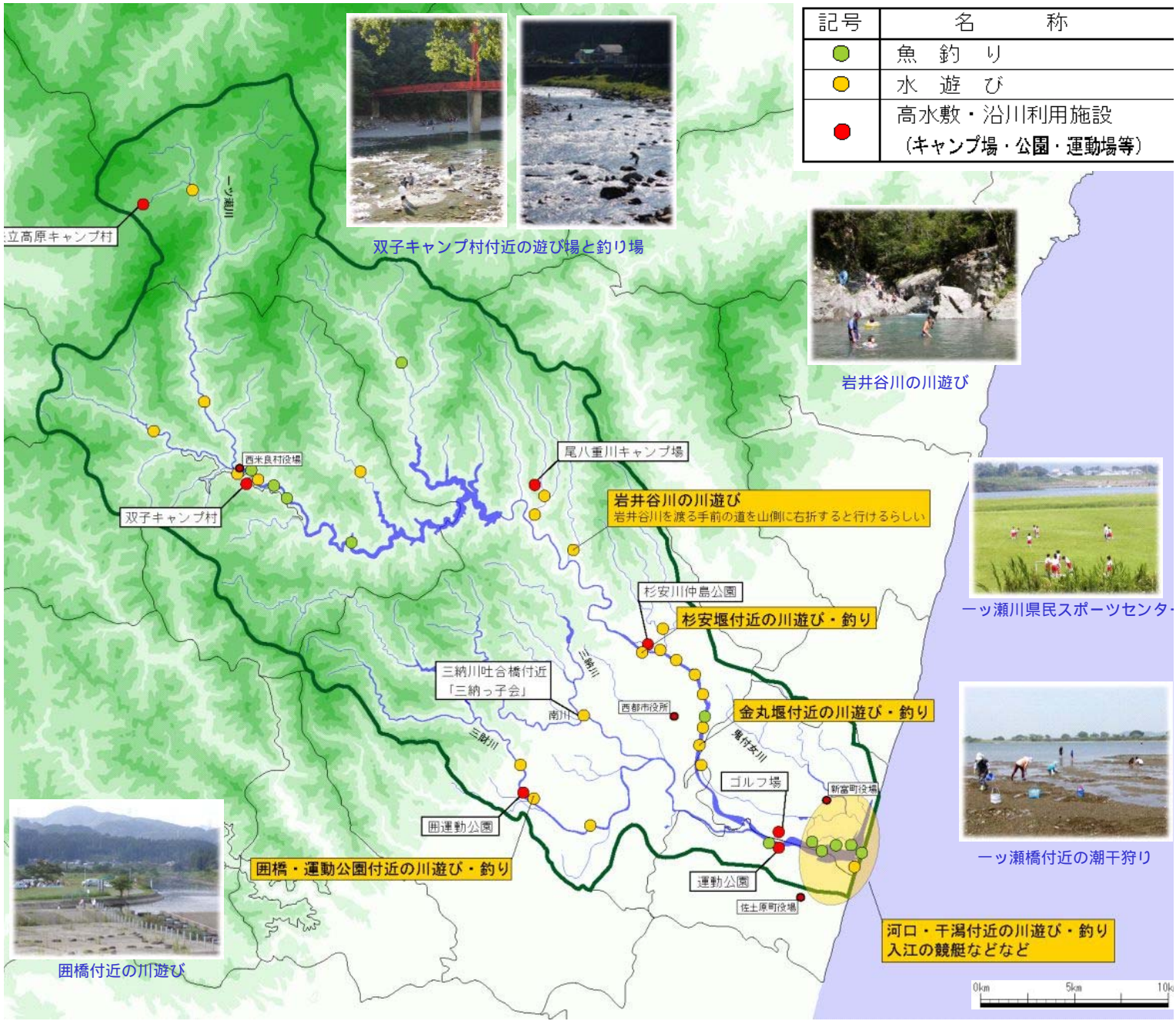
## りゅういきのあそび

ひとつせがわ みやざきけん なか かずすく かせんじき かわら かわ ひろ  
 一ツ瀬川は、宮崎県の中でも数少ない河川敷（川原）のある川です。その広  
 かわら りょう すぎやすかわなかじまこうえん さいとし つく  
 川原を利用して、杉安川仲島公園（西都市）などが作られています。また、  
 さんざいかわ かこうんどうこうえん さいとし いがい すぎやすいげき かねまるげき  
 三財川では 田運動公園（西都市）があります。それ以外にも、杉安井堰や金丸堰  
 の近くは水遊びをする子供たちでにぎわいます。三納川の吐合橋付近では、  
 毎年8月に「三納っ子会」が開かれ、マスのつかみ取りなどが行われます。  
 上流には、数多くのキャンプ場があり、キャンプを楽しむ人たちににぎわ  
 っています。

みなさんは、どんな風に一ツ瀬川で遊んでいますか？

### 凡 例

記号	名 称
●	魚 釣 り
●	水 遊 び
●	高水敷・沿川利用施設 (キャンプ場・公園・運動場等)



ひとつせがわ むかし かわ なが にご なが ひろ せ そこ み ぶか ぶち  
一ツ瀬川は昔、川の流<sup>れ</sup>は濁<sup>り</sup>がなく、長<sup>く</sup>広<sup>い</sup>瀬<sup>や</sup>底<sup>の</sup>見<sup>え</sup>ない深<sup>い</sup>淵<sup>が</sup>  
たくさんありました。そこには多<sup>く</sup>の魚<sup>が</sup>がすみ、魚<sup>釣</sup>りもあちこちで行<sup>わ</sup>れ  
ていました。

こども きけん ばしょ のぞ かわ じゆう あそ  
子供<sup>たちは</sup>、危<sup>険</sup>な場<sup>所</sup>を除<sup>いて</sup>、川<sup>の</sup>あちこちで自<sup>由</sup>に遊<sup>んで</sup>いました。  
がっこう すいらい じゅぎょう かわ おこな  
学<sup>校</sup>の水<sup>泳</sup>の授<sup>業</sup>も、川<sup>で</sup>行<sup>わ</sup>れていたそう<sup>です</sup>。

いま さかな ひとつせがわ むかし  
今<sup>でも</sup>魚<sup>が</sup>がたくさんい<sup>る</sup>一<sup>ツ</sup>瀬<sup>川</sup>ですが、昔<sup>は</sup>も<sup>っ</sup>と、き<sup>れ</sup>い<sup>で</sup>、い<sup>ろ</sup>ん  
な魚<sup>が</sup>いた<sup>ん</sup>です<sup>ね</sup>。



ひとつせがわ いま にご あお  
一<sup>ツ</sup>瀬<sup>川</sup>って、今<sup>は</sup>濁<sup>っ</sup>てい<sup>る</sup>こ<sup>と</sup>が<sup>多</sup>い  
けど、昔<sup>は</sup>も<sup>っ</sup>とき<sup>れ</sup>い<sup>だ</sup>つ<sup>た</sup>ん<sup>だ</sup>ね。  
なんで今<sup>は</sup>濁<sup>っ</sup>てい<sup>る</sup>ん<sup>だ</sup>ら<sup>う</sup>？

かわ あよ たの  
川<sup>で</sup>泳<sup>げ</sup>た<sup>な</sup>ん<sup>て</sup>、楽<sup>し</sup>  
そう<sup>だ</sup>な<sup>あ</sup>



そう<sup>だ</sup>！  
昔<sup>は</sup>ど<sup>ん</sup>な遊<sup>び</sup>を<sup>し</sup>て<sup>い</sup>た<sup>の</sup>か、家<sup>に</sup>  
帰<sup>っ</sup>て、じ<sup>い</sup>ち<sup>ゃ</sup>ん<sup>や</sup>と<sup>う</sup>ち<sup>ゃ</sup>ん<sup>に</sup>聞<sup>い</sup>  
て<sup>み</sup>よ<sup>う</sup>

